

平成 25 年度(2013 年度)業績

1. 研究発表等の要旨

No	発表者	発表課題名	発表学会等	年月
1	浦田貴子ら	冬どりタマネギを基幹とした畑作物作付体系の確立(第 1 報)中晩生タマネギの定植時期の違いとマルチ被覆が収量に及ぼす影響	園芸学会九州支部 研究集録 第 21 号:37	2013 年 9 月
2	石橋哲也ら	促成イチゴにおける低コスト局所温度制御循システムの確立(第 1 報)循環水の熱損失に基づく低コストシステムの提案	園芸学会九州支部 研究集録 第 21 号:43	2013 年 9 月
3	大坪竜太ら	促成イチゴにおける低コスト局所温度制御循システムの確立(第 2 報)新たな低コストシステムを用いた場合の経営試算	園芸学会九州支部 研究集録 第 21 号:65	2013 年 9 月
4	山口正洋ら	にせ黄斑病'による落葉で加温停止したハウスミカン園の早期収量回復技術	園芸学会九州支部 研究集録 第 21 号:24	2013 年 9 月
5	大坪竜太ら	促成栽培イチゴ'さがほのか'における定植時期の違いと局所温度制御が 6~7 月の生育と収量に及ぼす影響	園芸学研究 第 12 巻 別冊 2:164	2013 年 9 月
6	石橋哲也ら	促成栽培イチゴ'さがほのか'における低コスト局所温度制御による生育促進および増収効果	園芸学研究 第 12 巻 別冊 2:384	2013 年 9 月
7	浦田貴子ら	7 月播きセル成型トレイ苗を用いた冬どりタマネギの栽培技術(第 3 報)品種適応性の検討	園芸学研究 第 12 巻 別冊 2:421	2013 年 9 月
8	正司和之ら	タマネギ乾腐病の発生抑制を目的としたセル成型トレイ苗に対するベノミル水和剤の効果的処理法	日本植物病理学会報 第 80 巻:75	2013 年 11 月
9	田代暢哉ら	カンキツ黒点病菌 <i>Diaporthe citri</i> によるハウスミカン結果枝(緑枝)の枯死症状(病徴追加)	日本植物病理学会報 第 80 巻:75	2013 年 11 月
10	正司和之ら	佐賀県上場地域で発生するタマネギ乾腐症状に関与する <i>Fusarium</i> 属菌	フザリウム研究会 資料集:24	2013 年 10 月
11	正司和之ら	マンゼブを指標としたマンゼブ簡易分析法の実用性評価 -短期間の人工降雨処理条件下における付着量の推移-	日本農薬学会第 39 回 大会講演要旨集:101	2014 年 3 月
12	正司和之ら	マンゼブ・メタラキシル水和剤およびシペルメトリン乳剤に各種展着剤を加用した場合のタマネギべと病およびアザミウマ類の防除効果の変動	第 1 回 生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)タマネギ友の会資料集	2013 年 12 月

2. 刊行物(ホームページでも公開)

No.	刊行物名	年月
1	低コスト局所温度制御を駆使した所得1,500万円のイチゴ経営マニュアル	2013年4月
2	平成24年度業務年報	2013年5月
3	ハウスみかんに発生する‘黄斑病’の軽減対策(東松浦農業改良普及センターとの共同刊行)	2014年3月

3. 著書・解説

No.	著者	題名	掲載誌	年月
1	田代暢哉	梅雨期の長雨時などにおける効果的防除の実践	佐賀の果樹 第76巻 第6号: 4-8	2013年6月
2	大坪竜太	さきしぼか イチゴ「先絞果」の発生要因と対策	佐賀の野菜 第244号: 26-29	2013年7月
3	久富倫子	上場地区における冬どりタマネギの振興 冬どりタマネギは、高価格で儲かる!	佐賀の野菜 第244号: 32-36	2013年7月
4	田代暢哉	現場に役立つ農薬の基礎知識 2013 第10回 夏のカンキツ・カキの病害虫防除	農業協同組合新聞 (http://www.jacom.or.jp/series/cat166/2013/cat166130809-21939.php)	2013年8月
5	田代暢哉	<i>Phytophthora palmivora</i> によるカンキツ褐色腐敗病	植物防疫 67(10):569-576	2013年10月
6	田代暢哉 増井伸一	防除ハンドブック カンキツの病害虫	全国農村教育協会 pp.64	2014年2月

4. 講演

No.	演者	題名	研修会開催場所	年月
1	石橋哲也	佐賀県のイチゴ生産の現状と規模拡大 へ向けた取り組み	山武市 千葉県イチゴ組合連 合会研修会	2013年7月
2	浦田貴子	冬どりタマネギの栽培方法について	伊万里市 JA 伊万里 冬どり タマネギ研修会	2013年12月

5. 公表した研究成果情報

1) 佐賀県試験研究成果情報

No.	情報名	担当
1	イチゴ‘さがほのか’は有効下限温度が7℃でハウス内温度が高くなると成熟日数が短くなる	畑作・経営
2	イチゴ‘さがほのか’を収穫延長(6~7月)する場合は寒冷紗被覆と細霧冷房によって増収する	畑作・経営
3	‘さがほのか’はクラウン部の局所温度制御で2月までに増収し3月以降の糖度が上昇する	畑作・経営
4	‘さがほのか’はクラウン部の局所温度制御で開花日が早くなり生育が促進される	畑作・経営
5	冬どりタマネギ後作の中晩生タマネギにおけるマルチ被覆による収量確保	畑作・経営
6	上場地域に適した多収で食味、外観とも優れるカンショの新品種‘関東132号’	畑作・経営
7	百合茂産子雌牛肥育の場合、肥育期間を延長することでモモ肉の脂肪交雑が向上する	畜産・果樹